

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年4月

（１）トランスバーラ活着のポイントを実技を通じて学ぶ

4月18日、知名町のモデル農家ほ場において、肉用牛農家26人を対象に新たな飼料作物「トランスバーラ」の栽培現地研修会を開催しました。参加者全員で、実際に採苗を行い飼料畑への植え付けを行いました。植え付けは、活着率が高い条植えと株植えとし、畝間には雑草を抑える目的で牧草を播種しました。また、活着率を高めるためにはかん水が重要であることを説明しました。参加者は、実技体験を通じて、活着のポイントの理解を深めることができましたようです。



（２）母の日に向け高品質トルコギキョウ生産技術を学ぶ

4月19日、沖永良部花き専門農協で、東京の花き市場担当者や種苗会社も出席したトルコギキョウ研究会の研修会が開催され、15人が参加しました。研修会では最近増加している自家育苗や本ぽでの生育状況、新品種の特徴や現在の販売状況を学びました。また、2か所で現地検討を行い、栽培方法や病虫害対策について、熱心に意見交換を行いました。今後、生産者の資質向上を図るために再度、研修会を行う予定です。



現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年5月

（１）与論町において３戸が家族経営協定調印

5月23日、与論町役場で町、農業普及課が立ち会い、畜産農家３戸の家族経営協定調印式を開催しました。目標、経営方針、役割分担、収益分配及び労働時間などを家族で話し合い、協定内容を取り決めました。『『報・連・相』で、目標を達成したい』、『何でも話し合い、儲かる農業を目指す』、『地域の方の経営も参考に、家族で力を合わせて経営に取り組みたい』との農家の抱負に、農業委員会会長から「我が家の経営発展と併せて与論町の畜産農家の所得向上にも貢献してほしい」と励ましの言葉がありました。



（２）「よろん和牛女子」令和6年度活動がスタート

5月23日、与論町役場で「よろん和牛女子」の総会が会員９人出席のもと開催されました。当組織は、農業普及課が働きかけ、畜産に携わる若手女性１２人で令和４年度に設立されました。総会では、森園みゆき会長が「各種研修会や相互の牛舎視察、セリ市でのPR活動など活動を行いながら親睦を深め、自らの経営や与論町の畜産を活性化していきたい」と抱負を語りました。総会終了後、家畜保健衛生所と農業普及課が畜舎の衛生管理について研修を行い、技術研鑽を図りました。



（３）「咲八姫」の出荷本数倍増

沖永良部島で７人が栽培している「咲八姫」の、今期出荷が終了しました。出荷は、３月３日から５月３日までの２か月間行われ、暖冬の影響で開始が１０～１４日程度前倒しとなりました。出荷実績は、去年の２倍を上回る約２４,０００本が生産され、関東、関西を中心に販売されました。出荷率は、４月の長雨による病害等の影響も見られ、目標の８０％には届かず、来期への課題となりました。来期は、今期の反省を生かし、出荷率向上を目指して生産者・関係機関が協力して安定生産に取り組んでいきます。

(4) 「母の日イベント」大盛況

母の日前日の5月11日、沖永良部花き専門農協で、和泊町女性農業者組織「スマイル&フレッシュ」が、フラワーアレンジとブーケづくり体験会を開催しました。親子、夫婦、家族連れなど60組の参加者は、会員が生産したスプレーギクやトルコキキョウ、ユリ、ソリダゴなどを思い思いに組み合わせ、オリジナルのアレンジを300円の手料費で楽しみました。「八重のトルコキキョウがきれい」、「たぐさんの色にびっくり」等の感想があり、花のPRもでき、会員は来年も開催したいと意欲を新たにしました。

(5) 「サトウキビ黒穂病」対策本部で蔓延防止へ動く

5月12日、知名町でサトウキビ黒穂病が今期初めて確認され、その後和泊町でも確認されました。サトウキビ黒穂病は、茎の梢頭部から黒い鞭状物が抽出し、糖度減少や減収の要因となります。また、病原菌が風や雨水で分散し、地上芽や地下芽に感染し、株出回数が増えるほど、感染リスクは高まります。防除策としては、罹病した株は、黒い鞭状物に袋を被せて株ごと抜き取り、焼却処分します。さらに、抵抗性品種を植え付け、植付け時に苗消毒を行います。農業普及課は関係機関と連携し、被害軽減を支援します。

(6) サシバエによる牛のストレスを減らそう

5月8日、沖永良部家畜市場で沖永良部子牛セリ市前に、サシバエ対策研修会を実施し、肉用牛農家20人が出席しました。サシバエは、吸血による強い痛みのストレスを牛に与えます。研修では、幼虫対策として丁寧な除糞と適切な堆肥化、成虫対策としてハッカ油を吹き付ける牛体保護が有効であることを学びました。また、ハッカ油をサラダ油で50倍に薄めてスプレーで吹き付ける実演に、参加農家は関心を示し、「早速自分で実践するぞ」との意見も聞かれました。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年6月

（１）令和6年度の活動へ向けて意欲新たに活動をすすめる「はるあぐの会」

5月29日、知名町ではるあぐの会（女性農業経営士会）総会が開催されました。木之下会長からは、「仲間を増やすため、和泊町の女性農業者組織スマイル&フレッシュと合同での研修を増やそう」会員からは、「女性農業経営士以外を準会員として位置付け、活動に参加してもらいたい」等活動活性化に向けた多くの前向きな意見が出ました。今後も町と連携しながら、若手女性農業者には研修の際は声かけをして、女性農業者組織の活動を支援していきます。

（２）与論町7集落で地域計画策定に向けて集落の農業を語る

5月20日から6月13日にかけて与論町7集落で地域計画策定に向けた協議が行われました。会には、地域の農家延べ85名と関係機関が参加し、3班に分かれてブレインストーミング法により、農業を活性化させるためのアイデアについて話し合い、集落の優先項目を決めました。話し合いでは、土地・機械の活用、儲かる農業、人・後継者を増やす方法について多くのアイデアが出されました。与論町では3校区の地域計画案作成を予定しており、今後も地域農業の発展に向けて支援していく予定です。

（３）スマートフラワー出荷安定に向けた実証を実施

6月12日、東京の大田花き市場にて花き専門農協、生産者、市場関係者を交えた沖永良部産スプレーギク、ソリダゴのスマートフラワーの輸送実験の確認を行いました。6月9日に水揚げの有無や冷蔵期間等、異なる処理法の切り花を3種類の梱包材で包み、船便と航空便で発送した切り花の状態を調査しました。開梱時の状態はすべて概ね良好でしたが、航空便はやや劣化が早いと全員が評価しました。今後は鑑賞期間も含めた総合評価を行い、安定出荷技術の確立を図る予定です。



（４）かごしまブランド沖永良部ばれいしょの出荷実績

令和5年産のJAあまみ和泊・知名のばれいしょの出荷実績は、面積633ha（前年比108%）数量9,099t（前年比138%）金額1,913百万円（前年比121%）となりました。植付け時期は干ばつの影響を受けましたが、12月下旬からの降雨で生育は回復し、やや大玉傾向となりました。生育後半の3～4月の高温多雨により腐敗も見られましたが、出荷量は前年を上回る結果となりました。今後も継続して安定生産に向けて、関係機関と連携を図っていきます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年7月

（1）稼げる農業を目指して「新規就農者が抱負」

7月5日、和泊町えらぶ長浜館で令和5年度に新規就農した和泊町6人、知名町4人のうち8人、関係機関を含め60人が参加し、新規就農者励ましの会を開催しました。新規就農者は自己紹介と併せて「島の農業の発展に貢献していきたい」、「面積を増やし、稼げる農業を目指したい」、「新しい作物にも挑戦したい」など抱負を述べました。両町長の励ましの言葉、指導農業士会からの記念品贈呈、支援組織や4H Cの紹介などを行い、関係機関一体となって激励しました。



（2）沖永良部地区農業青年クラブ連絡協議会総会を開催

7月5日、和泊町えらぶ長浜館で、沖永良部地区農業青年クラブ連絡協議会総会が開催されました。総会では、令和5年度活動実績報告、令和6年度活動計画案並びに役員改選が承認されました。令和5年度は、群島交流会や青年農業者会議など4年ぶりに計画どおりの活動を行えたと報告がありました。また、来賓の指導農業士から励ましのことばもあり、クラブ員もやる気をみなぎらせました。沖永良部地区農業青年クラブ発展のため、関係機関一同、今後も引き続き支援を続けていきます。



（3）「牛も人も十分な暑熱対策で酷暑を乗り切ろう」子牛セリ市前研修

7月3、4日、沖永良部家畜市場で子牛セリ市前に牛の暑熱対策研修会を実施し、肉用牛農家約40人が出席しました。暑熱対策では、送風機の清掃による風量確保、十分な飲水量確保で、繁殖牛の発情徴候も弱くなる夏場の観察徹底を呼びかけました。また、メーカーの協力を得て実施した細霧装置の暑熱対策実演では、温度低減効果を農家が実体験しました。農業普及課では、農作業安全対策や熱中症予防も徹底するよう呼びかけました。

(4) 生産牛とさとうきびの耕畜連携による生産性向上を学ぶ

7月11日与論町で農業普及課と指導農業士会の共催で、耕畜連携研修会を開催しました。さとうきびと生産牛の新規就農者・指導農業士・耕畜連携参加農家や関係機関34人が参加しました。室内研修は耕畜連携の取組経過、さとうきび・牧草の栽培管理、堆肥生産について学び、現地で耕畜連携ほ場の牧草生育むらを確認して、土壌の低pH対策や施肥方法について学びました。耕畜連携ほ場の土壌・雑草管理について、耕畜両農家がやるべき作業の意見交換ができ、今後の広がりが期待されます。

(5) えだまめ春季栽培反省会を開催

6月27日、知名町役場でえだまめの春季栽培反省会が、えだまめ生産者、くみあい食品株式会社及び関係機関が参加して開催されました。令和6年春作のえだまめの出荷量は3,842kg、販売額は2,374千円となりました。生産者からは不織布による被覆栽培で害虫被害が軽減されたという意見があり、今後全体への周知を図っていきます。また、脱莢機や袋詰機、洗浄機を導入予定であり、生産者と関係機関が一丸となって、生産拡大への取組を進めていきます。

(6) 「咲八姫」の安定生産に向けた検討会を開催

7月9日、沖永良部花き専門農協にて令和6年度「咲八姫」出荷反省会が開催され、生産者、関係機関含め18人で、今期の反省と来期に向けた取組を検討しました。過去の試験結果と栽培事例をもとに栽培指針を見直し、出荷時期ごとの球根サイズ、冷蔵期間、定植日の具体例を提示しました。生産者からは、3月出し栽培が可能となり、作期拡大の手応えを感じさせるコメントもありました。今後も生産者、関係機関が協力して生産安定を目指します。



今後も生産者、関係機関が協力して生産安定を目指します。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年8月

（１）新規就農者基礎講座で幅広い知識を習得

8月22、23日に沖永良部事務所で延べ新規就農者18人、指導農業士3人及び町担当7人が参加し、新規就農者基礎講座を開催しました。講座では、農業普及課が農業経営、畑かん水利用、農作業安全、土壌肥料、病害虫対策、GAPなど幅広く講義しました。今年度は、新たに先輩農業者講話をカリキュラムに加え、講師の指導農業士からは、これまでの経験や「家族の和を大事に」、「家族経営協定で収益を妻の口座にも振込む」などやりがいを持つことの重要性について講話がありました。新規就農者からは、役に立つ情報だったとの感想が多かったです。

（２）ニンニク出荷反省会の実施

8月9日、JA和泊で令和5年産ニンニク出荷反省会を開催しました。出荷量は28t、販売額は24,902千円、平均単価は887円でした。令和5年産の単価は、販売期間中の大幅な下落もなく、昨年約1.3倍の単価となりました。なお、市場からは、箱に同封していた販促資材（島ニンニクの黒糖醤油づけレシピ）が好評だったという意見もありました。農業普及課からは、ネダニの防除や初期生育をそろえるため、かん水の徹底を呼びかけました。

（３）沖永良部果樹生産組合マンゴー品評会の開催

7月29日、マンゴー品評会が和泊町で開催され、組合員、関係機関等約40人が参加しました。品評会には13点が出点され、玉揃い、外観、糖度、食味の項目で審査を行い、金賞1人を含め5人が入賞しました。今年産は開花期から収穫期の好天気恵まれ、例年よりも収穫が早まり、着色の優れた果実が多くなりました。品評会終了後には、農業開発総合センター普及情報課と大島支場による「当地の気象に応じた整枝や着果安定対策に関する研修」も行われ、次年産の高品質果実の安定生産に向けて有意義な会となりました。



現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年9月

（１）スマートフラワー出荷安定に向けた実証を実施

8月27～30日に、秋田生花市場及び大田花き市場において、花き専門農協、市場関係者を交えた沖永良部産スプレーギク、ソリダゴのスマートフラワーの輸送実験を実施しました。切り花は一週間冷蔵保管したものと、収穫後すぐに発送したものを、3種類の梱包材及び新聞紙で包み、船便と航空便で発送しました。着荷後の市場関係者の評価では、開梱時の状態は新聞紙以外はおおむね良好との評価を得ました。今後は鑑賞期間も含めた総合評価を行い、安定出荷技術の確立を図る予定です。



（２）花き専門農協の販売額が前年比8%増加

9月6日、和泊町えらぶ長浜館で沖永良部花き専門農協総会が開催され、約80人が参加しました。令和5年度は台風6号の影響による長期出荷停止等で出荷本数が対前年比97%と減少しましたが、販売額は同108%でした。また、全量スマートフラワー出荷のキク、ソリダゴをはじめとする花き全体の販売単価は、好調に推移しました。総会后、徳州会沖永良部病院の川間医師から、「加齢に伴う体の変化を十分理解した農機具使用について」の講演があり、参加者の農機具事故防止の意識向上を図りました。

（３）高単収を目指してにんにくの栽培講習会を実施

9月13日にJA和泊会議室で、にんにく栽培講習会を生産者、関係機関31人出席のもと開催しました。JA和泊からは、にんにく栽培の一連の作業のポイントの説明がありました。その後、農業普及課からは、にんにく出荷反省会時に実施したアンケート調査で、大きな課題として挙げられていた葉枯病や、ネダニなどの病害虫対策について指導しました。今後も、800kg/10aの収量を目指して生産者、関係機関一体となって、にんにく生産を支援します。

（４）地域計画策定にむけた話し合い活動を実施

将来目指すべき農地利用の姿を明確にする地域計画の策定に向けた話し合いが、和泊町、知名町、与論町の3か町全ての集落で、町、農業委員会、農協、農業普及課等出席のもと5～9月にかけて実施されました。昨年話し合い結果をもとに作成した地域計画案や目標地図を確認し、将来の地域農業について検討しました。各町とも令和7年3月までに地域計画を策定することとしています。策定後は、地域農業の実情に応じた変更（見直し）の話し合い等を支援します。



現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年10月

（１）沖永良部地区青年農業者会議を開催

10月8日、知名町フローラル館で、沖永良部地区青年農業者会議を開催しました。同会議は、クラブのプロジェクト活動の成果発表や、自らの経営や農業に対する意見発表を行い、クラブ員相互の農業経営に役立てるとともに、地域農業の活性化を図ることを目的に毎年開催されています。今年の発表者は個人プロジェクト2人、共同プロジェクト3人、意見発表2人でした。会議の終わりには、指導農業士らから青年農業者へ激励の言葉があり、出席した青年農業者は、やる気を漲らせていました。



（２）VRを使用した農作業安全研修を開催

農業普及課は10月16日に和泊町中央公民館で、農作業安全研修会を開催しました。農作業事故の理解と知識を深め事故発生防止を目的とした本研修では、講義、農作業事故経験者の体験談DVD視聴の他、沖永良部島で初のVR（バーチャル・リアリティ）を使用した農作業事故体験のコーナーを設けました。研修参加者は、VRを使うことで実際の事故発生に近い体験ができ、農作業安全に対する意識が一層高まったようでした。



（３）さといも単収向上に向けて研修会を開催

10月15日に与論町役場で、さといも栽培研修会が開催され、34人が参加しました。JAからの基本技術説明の後、農業普及課からは、実証実績や疫病に関するアンケート結果を報告しました。3年分のアンケート結果から疫病発生傾向や防除実施状況を説明し、「入れない」「増やさない」「残さない」対策の重要性を指導しました。生産者からは、ドローン共同防除継続の要望もあり、高齢化の進む中、引き続き、産地維持・拡大へ向けて関係機関と連携して支援します。

（４）農業法人化・経営継承研修会および個別相談会を開催

10月8日、知名町フローラル館で「農業法人化・経営継承研修会」を開催し、30人が参加しました。研修会の中では、かごしま農業経営・就農支援センターのスペシャリストが、法人化による意識改革や信用力向上、人材確保等のメリット、円滑な経営継承の具体的な事例等を講演しました。特に若い農業者は積極的に法人化に取り組んでほしいとの内容でした。また、同日に法人化の意向を持つ3戸の個別相談会も実施しました。今後も、管内農家の法人化に向けた経営発展の支援を進めていきます。



現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年11月

（１）聞きたいこと聞いてほしいこと交流会～農地有効活用研修会～

11月6日、知名町役場で女性農業者経営士からなる「はるあぐの会」と農業普及課の共催による「聞きたいこと聞いてほしいこと交流会」で農地有効活用をテーマに研修会を開催し、和泊・知名両町の女性新規就農者、農業委員・農地利用最適化推進委員等21人が参加しました。農業委員会事務局からは、農地不足等に関する説明がありました。また、女性農業者の経営参画状況やほ場の土壌条件などについて情報交換をしました。次回は農閑期の来年6月頃開催の予定ですが、農業普及課では、今後も横のつながりが広がるよう支援していきます。



（２）トルコギキョウの安定生産に向けて実証中

11月7～8日、与論島にて農総セ花き研究室、経済連、JA与論、与論町担当者が参加し、トルコギキョウ現地試験（7月播種1月出し）の生育を調査しました。今年度は6品種を供試し、2種類の育苗方法（種子冷蔵のみ、種子冷蔵＋夜冷育苗）の生育比較、与論地域に適した品種の選定の2つを試験しています。今回は草丈、ロゼット率、チップバーン（葉先枯れ）発生率を調査し、ロゼットはいずれの区も確認されず、チップバーンは全区で確認されました。1月の出荷時まで生育調査の予定です。

（３）与論大雨被害の復旧指導

与論町での11月8～9日の大雨で、冠水・濁流による土砂流入や、耕土流出による農作物等や施設に大きな被害（被害額約9千万円）が発生しました。その中でも園芸品目は被害が大きく、関係機関で被害調査・現場確認を行い、優先すべき対策として、冠水した生育初期のいんげんほ場の再播種、植付け期間中のさといも・いんげんのほ場準備・植付け、病害対策（薬剤散布）を指導しました。大量の土砂流入や耕土流出したほ場の復旧では、時間のかかるほ場もありますが、引き続き復旧指導を行っていきます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和6年12月

（１）農業経営スペシャリスト派遣によるばれいしょ加工品販路開拓支援

11月26～27日に農業経営スペシャリストの派遣要請を行い、和泊町のバレイショ農家が試作中のポテトチップスについて、販路開拓等の助言指導を受けました。農場の現況を確認後、販売対象の明確化、SNSの有効活用法、具体的事例を交えたストーリー性のあるPR方法について助言がありました。特に「クラウドファンディング」の活用や各アンテナショップの利用方法などは、貴重な示唆となりました。今後も、担い手の経営発展や、法人化にむけた支援を継続して行います。

（２）「しまあかり」の普及を推進

令和6年度から、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種「しまあかり」の普及を目的として、和泊町と知名町で20か所の展示ほを設置しています。これまでの実証結果から、「しまあかり」の農家からの評価は良好で、抵抗性品種の必要性も理解されているため、今回展示ほを引き受けた農家も協力的でした。今後も関係機関と連携し、普及拡大に向けた取組を進めていきます。



（３）テッポウユリ期待のホープ「スカイホルン」

ＪＡあまみ知名花き部会では、県育成品種「スカイホルン」の試験栽培を行っています。12月10日に開催した知名町久志検での現地検討会では、対照品種「ひのもと」の草丈の短さや、試験品種「凜」の疫病発生があるなか、「スカイホルン」は草丈が15cmほど高く、疫病にも強いことを全員で確認しました。「来年栽培したい」との声も多く上がったことから、栽培面積の拡大が期待されます。農業普及課は「スカイホルン」栽培の定着と拡大に向け、関係機関と協力しながら今後も支援します。



（４）与論島さとうきび受託組合組織設立、総会が開催される。

12月5日、与論島さとうきび受託組合が設立され、同日与論町役場で設立総会が開催されました。この組合は、さとうきび受託者の確保、育成並びに与論島の持続可能なさとうきび生産体制を構築することを目的として設立されました。総会では、来賓、発起人のあいさつの後、組合規約の承認、役員の選任などが協議されました。組合の受託作業内容は、調苗、植付け、培土、中耕、除草、防除などです。農業普及課は関係機関と連携し、運営が円滑に進むよう、組織運営を支援します。



現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年1月

（1）～農薬散布の軽労化に向けて～農家自作無線式防除機の普及を検討

沖永良部では、地元農家が開発・製造した無線式防除機の評価が高いく、多くの農家が導入を希望してまいす。しかし、開発者は農作業の合間に製造するため、納期の長期化や本業への負担増などの課題があります。このため和泊町グリーン化推進協議会では、本機の農薬散布調査や製作企業を募集しています。1月16～17日には、製作候補企業3社や農業機械担当専門普及指導員を交えた検討会が開催され、製造上の課題や改良点について意見交換をしまして家と連携し、当防除機の普及に向けて支援します。



検討会が開催され、製造上の課題や改良点について意見交換をしまして家と連携し、当防除機の普及に向けて支援します。

（2）子牛セリ前研修で、肉用牛特有の収支計算等を学ぶ

1月6日と7日の両日、沖永良部家畜市場において子牛セリ市前研修会が開催され、約30人が参加しました。農業普及課の畜産担当者が講師となり、肉用牛の収支計算時に必要な子牛の棚卸し、育成費、減価償却費の計算方法などを指導しました。参加者は、肉用牛の経営状況が厳しい中で、正しく収支計算を行い、自分達の経営状況を把握することの重要性が理解されました。また、所得向上のためには、自給粗飼料の生産拡大が重要であることについての理解が深まりました。



所得向上のためには、自給粗飼料の生産拡大が重要であることについての理解が深まりました。

（3）高品質マンゴーの生産に向けた研修会を開催

1月9日、知名町で生産者及び関係者約40人が参加した「マンゴー栽培研修会」が開催されました。室内研修では、生産者による宮古島での先進地研修の報告のほか、農業開発総合センターの講師からのマンゴーの着果を安定させるための管理ポイントの説明がありました。その後、パッションフルーツに関する情報も提供されました。研修後には、町内の2園地の生育状況や着果状況を確認し、情報交換を行うことで、令和7年度産マンゴーの生産に向けた意欲が高まりました。



(4) 「咲八姫」秋の大雨のため今期の出荷量減少を懸念

1月8～9日、沖永良部島で生産者や関係機関14人が参加し、「咲八姫」現地検討会が開催されました。和泊町2人、知名町3人の生産者ほ場を巡回し、生育状況の確認や意見交換、栽培技術の助言をしました。今期の定植球数は約5万球（前期比約1.4倍）で、2月下旬から4月下旬の出荷が見込まれます。しかし、10～11月上旬定植直後の高温や大雨などの影響で球根の腐敗や疫病が発生し、出荷量の減少も懸念されています。農業普及課は、今後も生産者や関係機関と連携し、「咲八姫」の安定出荷を支援します。



現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年2月

（１）新規就農者の意欲的な営農に期待して

1月下旬から2月中旬に、指導農業士、町農政担当課・JA・農業普及課の担当者を交え、管内新規就農者ほ場を部門別に巡回しました。就農時の計画書等を確認しながら、栽培状況、経営管理、飼養管理状況等を聞き取りし、土壌診断に基づいた施肥、除草対策、病虫害防除及び簿記記帳の習得等を助言指導しました。新規就農者の技術は年々向上し、今後も各部会・振興会研修会や新規就農者を対象とした講座等で、新規就農者の所得向上を支援します。



（２）ばれいしょのかごしまブランド産地指定 30 周年記念大会を開催

2月1日、和泊町やすらぎ館で沖永良部の「春のささやき」ばれいしょのかごしまブランド産地指定 30 周年記念大会が開催され、約 200 人が出席しました。大会では過去 30 年の歩みの振り返り、種場産地や功労者への感謝状の贈呈、農開C徳之島支場の研究員による「しまあかり」について講話がありました。また、消費者に信頼される安全なばれいしょ作りを目指し、強い産地体制を築く決意を新たに表明しました。農業普及課は、引き続きブランド産地の維持拡大に取り組んでいきます。



（３）沖永良部産花きの知名度向上を目指して名古屋でPR

1月31日から2日間、名古屋金山総合駅で開催された「かごしまの観光と農産物フェア in 名古屋」に、えらぶの花推進協議会が参加しました。当日は、協議会が作成したPR資料の展示や、沖永良部産キクとソリダゴを組み合わせた花束 200 束を販売しました。花束は 40 代以上の女性を中心に好評で、2日目の 15 時には完売しました。また、購買者からユリやトルコギキョウの要望もあり、花きの潜在的な需要を実感する機会となりました。農業普及課は、消費地の需要に応える産地づくりの支援を続けます。



(4) 沖永良部産花き生産技術の向上を目指し、花き品評会を実施

2月4日、和泊町役場で沖永良部花き品評会が開催され、和泊・知名両町から110点の切り花が出品されました。両町合同で開催する品評会は、今年度が初の開催で出品数は増加しました。キクをはじめとする5部門を関係機関による相互審査で部門上位品を選出後、会場全員の挙手で最優秀賞を決定しました。両町合同開催や市場関係者を交えない審査は初の試みでしたが、生産者からはおおむね好評でした。品評会の受賞が生産者の技術研鑽の励みになるよう、農業普及課は様々な面で支援します。



(5) 知名町でフラワーバレンタインイベント実施、会場賑わう

2月11日、知名町のコミュニティスペース「entaku」で、フラワーバレンタインイベントが開催されました。このイベントは知名町農業青年クラブが、大切な人へ花をプレゼントすることで、愛情や感謝の気持ちを伝えることを目的として毎年開催しています。今年は、体験型フラワーアレンジメント教室が開催され、親子連れなど20組が参加しました。参加者からは、「参加して良かった。家に飾るのが楽しみ。来年も開催してほしい」と意見があり、初めての体験に、会場は大いに賑わいました。

(6) 技術研鑽を目指してトルコギキョウ産地視察 in 沖縄

1月28日、沖縄県にてトルコギキョウ視察研修が行われ、沖永良部島から7人、与論島から4人の生産者及び関係機関が参加しました。研修では、沖縄県農業研究センター、JAおきなわの生産者ほ場、個人出荷生産者ほ場を訪問し、暖地に適した品種選定や土壌病害対策、栽培方法、出荷方法などを学びました。生産者の積極的に質問する様子が見られ、有意義な研修となりました。来年度も島外視察研修を希望する生産者の意見が多く寄せられたことから、農業普及課は、継続できるよう支援します。



現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年3月

（１）与論島でトルコギキョウ安定生産に向けて

3月4日、JAあまみ与論事業本部で第2回与論地域トルコギキョウ生産振興検討会が開催され、生産者及び関係機関の16人が参加しました。検討会では、令和6年度の活動実績が報告され、与論島での自家育苗による現地実証の結果に基づき、種子冷蔵のみで栽培可能な2品種が選定されました。さらに、来年度の活動計画として、土壌病害対策の一環として、低エタノール土壌還元消毒による現地実証計画が説明されました。今後もトルコギキョウの生産量増加を目指し、農業普及課は継続的に支援します。



（２）可給態窒素を活用した土づくりを学ぶ

2月27日、与論町中央公民館で可給態窒素簡易測定研修会が開催され、野菜・果樹・花き・畜産・さとうきび農家や関係者33人が出席しました。研修会では、可給態窒素の概要説明の後、5種類の試料で簡易測定法の演習を行い、測定値の土づくり・施肥窒素量への活用について学びました。研修会の最後には与論町土壌のサンプルも測定し、参加者は数値化できる可給態窒素に興味を示していました。今後は可給態窒素の分析体制を町で整備して土づくりや適正施肥を更に進めていく予定です。